

IQ よりも EQ

JJISXA 池

現代は、IQ よりも EQ の時代といわれています、IQ という言葉は知っているが、ご存知の方も多いでしょうが、EQ とは何だと思われる方もいるかも知れません。

ご存知の、IQ (Intelligence Quotient) は、**知能指数**と言われ、この数字が高いか低いかで、簡単に頭が良いとか悪いとかの基準にされているようです。

その他にも、教師の桑田昭三氏が独自の研究で編み出した、いわゆる「偏差値」、教育の現場では重宝していたが、現在では問題視されることになってしまいました。

知能の偏差値を ISS (Intelligence Standard Score) といっていますが、知能 (intelligence) とは、ヒト・動物の脳において、情報を処理し、情報を記録・再生し、処理結果を適切に出力すること、これらの過程を活性化することで、一般には、この過程をより適応的に、効率良く、より速く行う場合に知能が高いと形容するようです。

EQ (Emotional Intelligence Quotient) は、情動指数、**心の知能指数**と呼ばれ、一般的に自己認知力・自己統制力・共感性・コミュニケーション力・柔軟性・楽観性の6つの観点から測られるようで、EQ の値は一生の間を通じて不変なものではなく、環境と遺伝の双方の影響により、上がったたり下がったりもするようです、簡単には、自分の感情を把握する能力、他人の気持ちを理解する能力の指標で、人間関係を築くための力を表すものとも言えるようです。

ダニエル・ゴールマンは、EQ の著書を多く著していますが、その一つ「EQ—こころの知能指数」で、EQ は、共感力、自己認識力、粘り強さ、楽観性、熱意、衝動のコントロール力といった能力からなると解説しています。

このことについて、「江戸しぐさかたりべの会」を主宰する、越川禮子氏が、・・・前述のことは、全部「江戸しぐさ」の要素である。「江戸しぐさ」は江戸町方のリーダー達の感性で、他の地域や他人との付き合いを特に大事にします。いわば人のお付き合いの仕方を教える考え方なのです。その基本が「お心肥」(おしんごやし)です。おいしいものを食べて体を肥やすばかりでなく、心を豊かにすることです。人間として大事なことは、心を豊かにすることにあります、知識や技術を身に付けることも必要であり、更には、人の間で切磋琢磨して、人格の向上を図らなければいけませんし、その究極は人を育てることに尽きるとも言われています。・・・と、述べています。

教育基本法の改正もさることながら、一番肝心なことは、何時の時代においても、「心を豊かにする」ということが必要なことのようにです。

金は無くても、若くは無くても、心だけは豊かにいたいと思うのですが、なかなか理想通りにはいきそうも有りません、つつい細かいことにとらわれて愚痴が出るようで、それも歳と共にひどくなっていきそう、大いに反省の余地があります、忍耐と寛容を忘れず、IQ は低くても、せめてEQ を高める努力はしようと思うこの頃です。